



河井寛次郎 《呉州泥掛刷毛目皿》

Artists of the Folk Crafts Movement
— with a Focus on Kanjiro Kawai

22 April (Wed)
- 1 July (Wed)
平成27年(2015)

4.22^水 — 7.1^水

民芸運動の旗手たち
— 河井寛次郎を中心に

開館時間: 9:00 - 17:00

※金曜日は20:00まで開館

※入館は閉館の30分前まで

休館日: 月曜日(特別展会期中、祝日及び振替休日は開館)

入館料: 一般 510(410)円、大学生 310(250)円

高校生以下無料

縮景園との共通券: 一般 610円、大学生350円

※()内は20名以上の団体



- JR広島駅より約1km
- 広島城より約400m
- 市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白島線で「縮景園前」下車20m
- ひろしまめいぷる〜ぶ(市内循環バス、JR広島駅新幹線口のりば発着)「県立美術館前」下車(白島線沿い)



名勝「縮景園」とともに歩む アートの杜
広島県立美術館

Hiroshima Prefectural Art Museum

〒730-0014 広島市中区上鞆町2-22 TEL (082)221-6246
http://www.hpam.jp/ FAX (082)223-1444

民芸運動の旗手たち

—河井寛次郎を中心に—

【民芸運動の旗手たち —河井寛次郎を中心に】

今期は、民芸運動の中心を担った河井寛次郎(1890-1966)の没後50年を前に、当館の工芸コレクションから、河井寛次郎、富本憲吉、バーナード・リーチ、浜田庄司、芹沢銈介、黒田辰秋、宗廣力三、志村ふくみ、渡辺溥子の陶磁・漆工・染織の作品群により民芸の思想が育てた工芸の世界を紹介します。

民芸の思想を糧にして、優れた美意識と高い技術を自家薬籠中のものとした作家たちの個性が羽ばたいた世界を楽しんでいただければ幸いです。

【内容紹介】

民芸は大正末期より柳宗悦らによって提唱された造語で、民衆的工芸の略称です。その思想は、機械化や工業化が急速に進んでいた時代に、手仕事の大切さ・日用雑器に潜む美を再認識させる民芸運動へと発展しました。そして、やきもの、織りもの、染めもの、うるし、木や竹などの素材・伝統に則った技法・各地の美意識を再構築したさまざまな様式へと展開しました。

柳は、民芸思想の普及のために雑誌『工藝』を発行し、1931(昭和6)年1月に創刊、1951(昭和26)年1月に終刊するまで120号を発行しました。1943(昭和18)年までは月刊、その後は社会情勢もあって不定期となり、1946(昭和21)年まで3年間発行停止し、戦後になって6巻を発行しました。柳は、雑誌そのものを工芸品として作ることを目指したため、内容はもちろんのこと、素材やデザインを極めて重視した。装幀は民芸運動に賛同した作家たち—芹沢銈介を筆頭に—によって制作され、表紙の素材は手引き・手織り・草木染めの木綿布や葛布、和紙を用い、本文用紙も可能な限り手漉き和紙を採用するなど、細部まで心を尽くした作りとなっています。120冊の豪華な装幀をお楽しみください。



『工藝』表紙
型染装幀: 芹沢銈介
1931(昭和6)年

民芸運動の旗手たち

—河井寛次郎を中心に

【主な作家紹介】

河井寛次郎

河井寛次郎(1890・明治23-1966・昭和41)は、島根県安来市生まれ。1914(大正3)年に東京高等学校窯業科を卒業したのち、京都市立陶磁器試験場で研究を重ね、1916(大正5)年に京都の五条坂に鐘溪窯を開きました。初期は、青磁や辰砂など中国や朝鮮の古陶磁の技術を駆使した作品で高い評価を得ました。大正末期からは、柳宗悦や浜田庄司たちと民芸の道を志し、中心的役割を果たし、その後の創作活動では自由で新しい表現を求めつづけ、自己の赴くままの境地をあらわしました。



河井寛次郎
《辰砂菱花食籠》

芹沢銈介

芹沢銈介(1895・明治28—1984・昭和59)は静岡市生まれ。東京高等工業学校図案科を卒業後、琉球紅型の美しさに傾倒し、研究の結果、独自の型染を完成させました。また、柳宗悦の民芸思想に共鳴して、1931(昭和6)年創刊の雑誌『工藝』の表紙制作を契機に制作者として民芸運動に参加しました。独特の装飾文字、卓抜したデザイン感覚と色使いが印象的である。1956(昭和31)年、重要無形文化財〈型絵染〉保持者に認定されました。



芹沢銈介《紙を造る人》(部分) 1950(昭和25)年

宗廣力三

宗廣力三(大正元・1912-昭和64・1989)は、岐阜県郡上郡生まれ。昭和27(1952)年に郡上郷土芸術研究所を設置し郡上紬の研究・生産を開始しました。3年後には京都に河井寛次郎を訪ねて、師事。昭和57年(1982)、重要無形文化財〈紬縞織・緋織〉保持者に認定されました。日本各地に存在した伝統的な緋や紬の世界に創意を持ち込み、現代工芸としての芸術性を引き出しました。様々な技法の開拓にも熱心で、「どぼんこ染」もそのひとつです。



宗廣力三《茜茶ほぐしどぼんこ染緋着物》
1985(昭和60)年

民芸運動の旗手たち

—河井寛次郎を中心に

【関連イベント】

※都合により展示内容やイベント内容に変更が生じる場合があります。

友の会ボランティアガイド

当館友の会ボランティアガイドが、HPAMコレクション展についてわかりやすく解説します。

日 時: 平日14:00~/土日祝11:00～、14:00～(1時間程度)

場 所: 2階展示室

参加料: 無料

※要入館券(高校生以下無料)、申込不要

※ただし、6/6 14:00～は休み

※毎月第4土曜日11:00～は、小学校及び特別支援学校小学部第5・6学年の児童と保護者の皆様を対象に、“親子ギャラリートーク”として実施します。

コラボトーク『民芸のこころ』に迫る！

日時: 5月29日(金) 15:00～(40分程度)

講師: 角田 新、福田浩子(当館学芸員)

場所: 2階 3室、4室

※事前申込不要、要入館券

※2階3室前に集合してください。

【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。ご掲載の際に画像がご入り用の場合は、当館までお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館までご提出いただき、1週間程度お時間を頂戴いたします。ご了承ください。

問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail. keiko_yamamoto@nomurakougei.co.jp (山本宛)

担当 学芸課 福田浩子

事業推進課 山本恵子